

南海

FLASHPOINT

SOUTH CHINA SEA



# PLAYBOOK



FLASHPOINT SERIES VOLUME I

献辞 .....	2	南シナ海紛争のタイムライン .....	9
デザイナーズ・ノート .....	2	危機の国家 .....	11
ディヴェロッパー&ソロ・デザイン・ノート ...	3	ゲーム・クレジット .....	11
カードの側面 .....	4	配布されるイベント・カード .....	12
戦略上のコツ .....	8		



GMT Games, LLC

P.O. Box 1308, Hanford, CA 93232-1308 • GMTGames.com



## 献辞

ゲーマーたちに捧げる、フェイス・トゥ・フェイスのゲームへの帰還です。さあゲームをしましょう。そして対戦相手を強くハグしてあげましょう！

ハロルド・ブキャナン[Harold Buchanan]

## デザイナーズ・ノート

### トワイライト・ストラグルの軽量版？

私はトワイライト・ストラグルが大好きですが、これはトワイライト・ストラグル[Twilight Struggle]ではありません。カードを使ったり、影響力を配置するゲームをトワイライト・ストラグルと呼ぶのはもう止めにしましょう。私の思うところ、トワイライト・ストラグルはパンチとパンチの応酬の緊張感と鋭いテーマ性でこれまで創られた中で最高のゲームです。しかし「フラッシュポイント:南シナ海」では少し違うことを試したかったのです。学習曲線を短くするため、私はそれらを覚えたプレイヤーに物質的優位を与えないデッキを作ろうとしました。強制的でないイベントは、よりシンプルなゲームにするため文章量の削減に貢献しました。スコアが手札に拡がるということは、より短期的な選択肢の増加と、手札内のオプションの増加を意味します。

よりシンプルなマップ、限られたコマ、(ゲーム中の)少ないカード・プレイは、計画性に乏しく、ドレードオフに対する許容度が小さいことを意味します。学習速度が速く、教える場合も早いということは、2人のプレイヤーらが素早く飛び込み、最初から競争力を持てるゲームであることも意味します。

最後に、トワイライト・ストラグルではありません、間違いなく確実に。でも史上最高のゲームの影響は受けたでしょ？ もちろん！

### 戦争[War]

本ゲームをデザインする上で最もインパクトのある前提は『ドンパチ[shooting war]が起きたら全員敗北』という点です。さらに言えば、2人の主人公たちの力の源泉は経済力にあるため、私個人的にはこの対立がドンパチに発展することはないと見込んでいます。私はなぜ政府がドンパチを前提としたモデル化しなければならないのは理解しています。またウォーゲーマーたちがミサイル発射や空襲の何を楽しんでいるかも理解しています。ですが、これはその手のゲームではありません。

前提として『この対立は外交的にどのように展開するか』という命題が問題となります。彼らは積極的な拡張主義を続ける一方、同時に民間の活動家として国際社会に参加する大きな必要性は訴えています。経済成長し、国際社会との相互関係が深まるにつれ、その一員として受け入れられる必要性も高まっています。

### 優位性への入札[Bidding for Advantage]

私が最も期待しているメカニズムは、ゲーム開始時の優位性への入札です。疑問は常に「バランスとは何か？」です。マーク・ハーマン氏は一連の質問で疑問にこう答えています。「誰がプレイしている？ 彼らの経験はいかほど？ どちらもゲーム内に関する専門知識は同等か？」。私が更にいくつかの疑問を追加してみるなら、参加者は何

種類かのプレイ・スタイルやプレイヤーに触れたか？ カードにバリエーションはあるか？ バランスとはゲーム自体よりプレイヤーに依存しているため、中国の優位性を入札させることで、私はプレイヤーたちにそのバランスを提供することにしました。

(GMT)Liberty or Death のデザイン後、ゲーム内のバランスの取れている要素、取れていない要素についてプレイヤーたちからの打ち返しがありました。数年前、サン・ディエゴ・ヒストリカル・ゲームズ・コンヴェンションで、あるプレイヤーはイギリスに勝利するのは困難だと言ってきました。私は近くに座っていた友人のマイケル・ヴィルバート氏のところに案内しました。彼は自身がイギリスであれば毎ゲーム必勝だと信じているようでした。私はその二人にこの問題をとことん話し合ってもらうことにしました。

バランスはプレイする人たち、その経験値、戦略策定の経験の多様性に依存します。100回以上のプレイテストを観察した結果、多くのプレイ・スタイルや二人の非常に経験豊かなプレイヤーでバランスがどの程度になるかの知見を私は持っています。しかしそれはプレイされたゲームの99%が間違ったバランス・ポイントになります。座ってプレイする際、プレイヤーたちにその経験値をさせていさせてはどうでしょうか？ 経験豊かなプレイヤーたちと頻繁にトワイライト・ストラグルをプレイする私たちは全てのゲームでそうしています。ここでしない理由は何でしょう？

### 政略戦[Political Warfare]

政略戦は物理的な紛争に程遠い一連の行動を表します。これは対立する敵やその同盟国の利益に影響を与え、強要し、威嚇し、または弱体化を図る措置が含まれます。

こうした取り組みには以下が含まれます：サイバー戦、プロパガンダ、偽情報キャンペーン、経済制裁、アジテーターの採用。

合衆国陸軍 特殊作戦コマンド、より

「政略戦白書[Political Warfare White Paper]へのSOFの支援」(2015年3月10日)：

政略戦は、外交・経済的関与、安全保障部門の補助、全く新しい形態の不正規戦、および情報・影響活動に関連するさまざまな活動を包含するものである。これら関連する諸活動、プログラム、キャンペーンは、包括的な効果を得るため政府全体の枠組みに織り込まれている。この点で政略戦への支援は、前世代の国家安全保障の考え方や軍事作戦の概念に比べると斬新な概念である。しかし政略戦は合衆国の政策と戦略において全く前例が無かったわけではなく、冷戦期にすでに現在の構想の予兆ともいえるアプローチの例もある。

### 採点上の選択肢[Scoring Choices]

私はプレイヤーたちがゲームの指示するタイミングで得点することを強要するような得点構造をいくつか検討しました。私はプレイヤーたちが手札に目を通し、得点機会を得るだけでなく、得点プロセスが発動する前に、有利なカードのコンボを特定し、その範囲内で得点できるかどうかを追跡できる方がずっと好みです(各々1ターンの1回に制限)。これがプレイヤーにもたらす、もう一つの選択肢は、ターンの早い段階で採点カードを実行して、対戦相手がそれをターン後半に使用する機会を奪ってしまうことです(ターン1の開始時に合衆国がCR-FONOPの採点をしてしまうのは興味深い戦略です)。

## モード類[Modes]

プレイテストでは、プレイヤーたちは大した緊張感もなく、手札を切り尽くしていました。私はその様子を見るにつけ、決断がもう一段深くなるようにしたいと思いました。友人のアナンダ・グブタと話し合った結果、手札管理の決断の複雑さを増加するのがベストだと判断しました。あるプレイヤーは今でも手札中最高の敵のイベントを切るのを待たねばならないかもしれません。しかしモードがあるなら、プレイヤーたちは手札に最大限の柔軟性を与えられ、その上、敵の柔軟性からも防御する必要があるのです。

## 国力[Country Strength]

友人のヴォルコ・ランクと早い時期に話し合ったとき、高い質感のあるゲームの重要性を再認識しました。これは経済的影響力と外交的影響力がまったく異なった性質を持っていることにも表れています。また国力[Country Strength]についても領有権主張国が全く同じ影響力を有しているわけではありません。フィリピンやベトナムは、ブルネイ、インドネシア、マレーシアより本地域の出来事により大きな影響力を持っています。なお国力はその国での最大採点量と、同国に配置し得る外交的・経済的影響力の最大値に反映しています。

## キャンペーン(複数)[Campaigns]

時間やイベントのグループは、ゲームの時間経過中に一様に分布しているわけではありません。実時間や暦年ではなく、行動や機運の勢いのある流れのなかで起こっています。またゲームの一部は歴史を反映しているものもあれば、何が起こり得るかを反映しているものもあることに留意してください。

## 台湾[Taiwan]

議論の余地はあまりありません。中国が大勢を占め、台湾の主張(全般的に中国の主張と同内容)は、ほとんど象徴的なものです。確かに台湾は東沙諸島[Pratas Island]と太平島[Itu Aba]の領有を主張していますが、私はその影響をマップ上ではなくイベント・カードで台湾とその影響をカバーするのが最善だと判断しました。「フラッシュポイント: 台湾」というゲームもなくはありませんが、まずこのゲームがどうなるか見て見ましょう。

## ハロルド・ブキャナン[Harold Buchanan]

カリフォルニア州サン・ディエゴ

2021 年 9 月

## ディヴェロッパー&ソロ・デザイン・ノート

ハロルドが丁寧に GMT ウェアハウスでフラッシュポイント: 南シナ海 のデモを行ってくれたので、すぐに夢中になりました。このゲームのことを考えずにいらなかった私は、その夜、カリフォルニア・ハンフォードのセコイア・インに用意されたメモ紙に、フラッシュポイント: 南シナ海 のソリティア・システムの核となる部分を書きました。4 枚の小さな紙片の両面を使って 15 分ほどで完成させました。翌日ハロルドに私がしたことを話すと「もっとやってくれ」と依頼されました。

それ以来、私は「フラッシュポイント: 南シナ海」の虜になりました。このゲームを 100 回以上プレイして、さまざまな戦略を試し、ハロ

ルドのゲーム・バランス取りを手助けしました。私がゲームを理解したと思うたび、ハロルドは何かを変えてきました。そのたびに「なぜ？」とは思いましたが、結局は新しいバージョンの方が面白かったのです。ついには、ゲームは安定し、私は私のソロ・システムの作業を始めました。最初にやったのはハンフォードで作ったメモを捨て、一からやり直すことです。これは大失敗作でした。4 個のバージョンを経て、私は最初の地点に立ち戻り、あなたの手にするバージョンは、基本的アイディアからかなりの洗練されたバージョンです。

自分の手掛けたゲームをプレイ続けることは珍しいことですが、「フラッシュポイント: 南シナ海」は楽しくプレイし続けています。そのため、私はこのシステムに独自の計画もあります。皆さんも私以上に(より一層)楽しんで下さい。

## ジェーソン・カー[Jason Carr]

コロラド州コロラド・スプリングス

2021 年 8 月

## カードの側面

図版略	1. ヴェトナム共産党中央委員会書記長グエン・フー・チョン[General Secretary of the Communist Party of Vietnam (Nguyễn Phú Trọng)]: 2011 年 1 月 19 日より現職。
図版略	2. フィリピン大統領ロドリゴ・ドゥテルテ [President of the Philippines (Rodrigo Duterte): 2016 年 6 月 30 日より現職。
図版略	3. インドネシア共和国大統領ジョコ・ウィドド [President of the Republic of Indonesia (Joko Widodo): 2014 年 10 月 20 日より現職。
図版略	4. マレーシア首相マハティール・モハマッド [Prime Minister of Malaysia (Mahathir Mohamad): 2018 年 5 月 10 日より現職。
図版略	5. 日本国首相 安倍晋三 [Prime Minister of Japan (Shinzō Abe): 2012 年 12 月 26 日より現職。
図版略	6. インド首相ナレンドラ・ダモダルダス・モディ [Prime Minister of India (Narendra Damodardas Modi): 2014 年 5 月 26 日より現職。
図版略	7. 朝鮮労働党委員長 金正恩 [Chairman - The Worker's Party of Korea (Kim Jong-un): 2014 年 5 月 26 日より現職。
図版略	8. ロシア連邦大統領ウラジーミル・プーチン [President of Russia (Vladimir Putin): 2012 年 5 月 7 日より現職。
図版略	9. 台湾指導者 蔡英文 [Leader of Taiwan Tsai Ing-wen]: 2016 年 5 月 20 日より現職。
図版略	10. 中国人ハッカーは合衆国空母を目標にする [Chinese Hackers Target US Carrier]: (2016) 中国人ハッカーが南シナ海を巡航中の合衆国軍艦ロナルド・レーガンを公式訪問した外国人関係者に向けて「スピア・フィッシング」攻撃を実施した。攻撃形態は感染した電子メールである。もし成功していたら感染した電子メールはコンピュータに感染するか、さらなるウイルスをダウンロードする可能性があった。

図版略	11. 中国・マレーシア海軍協力強化協定に調印 [China and Malaysia Sign Naval Co-operation Deal]: (2016) 中国とマレーシアは海軍協力を中心とした相互防衛から経済取引に至る九つの協定に調印した。これはマレーシア首相と、彼が密接に関連している政府系投資ファンドにかかる汚職について合衆国が非難したことに応じるものだと多くの人々は考えている。合衆国は当時のマレーシア首相に関連する 10 億ドル以上の資産を差し押さえた。
図版略	12. 中国が設立したアジアインフラ投資銀行に大規模な投資 [Chinese-Funded Asian Infrastructure Investment Bank Invests Heavily]: (2016-2019) AIIB のメンバーは設立以来 80 億ドルを投資しており、今後年間 100 ~120 億ドルまで増資する予定である。投資対象はアジアのインフラ建設が中心。中国が主要参加国であることから、同地域における中国の影響を促進するための仕組みであるとの見方もある。
図版略	13. ヴェトナムがサンド礁の再主張 [Vietnam Reclaims Sand Cay]: (2015) ヴェトナムはスプラトリー諸島のサンド礁とウエスト・ロンドン礁で間違いなく埋め立て工事と建物の建築を進めている。中国の埋め立てに比べて小規模だが、中国は本工事を非難し、安全性の向上と科学の発展のための努力であるとして自国の作業は擁護している。
図版略	14. 合衆国、(インド、日本、オーストラリアを含む)「安全保障ダイヤモンド」会合に参加 [US Participates in “Democracy Diamond” Meeting (including India, Japan, and Australia)]: (2017) 2007 年に日本の安倍晋三氏が創始した、(合衆国、日本、オーストラリア、インド)4 カ国間対話を継続する。2017 年開催の ASEAN サミットで 4 カ国が一堂に会した。
図版略	15. フィリピン、国防予算増額 [Philippines Boosts Military Budget]: (2017-2019) 過去 10 年における支出不足と南シナ海の領有権主張を保障する必要から、フィリピン政府高官は軍事費の増額を計画する。マニラ政府が予定の予算を実際にどう執行するかは不透明である。



図版略	<p><b>16. 中国漁船群をインドネシア領海で爆破 [Chinese Fishing Boats Breach Indonesian Waters]:</b> (2016-2019) インドネシアと中国が係争地での漁業権をめぐり衝突した。その結果、インドネシアに多数の外国船籍船が沈没し、乗組員は逮捕、中国や他の船籍の漁船との衝突につながった。 (原版写真は <i>Unsplash</i> の <i>Macau Photo Agency</i> による)</p>	図版略	<p><b>22. ASEAN 諸国との一致協力 [ASEAN Countries Work Together]:</b> (2019) フィリピン外相テオドロ・ロクシンは ASEAN の対中交渉について「1991 年の対話開始以後、中国とのかかわりは深まり、あらゆる分野に強力が広まっている」と述べた。</p>
図版略	<p><b>17. 日本、合衆国軍艦を護衛する [Japan Escorts US Vessels]:</b> (2018) ロナルド・レーガン打撃群と日本国海上自衛隊第 4 護衛隊群の水上部隊は、2018 年 8 月南シナ海で共同軍事訓練を実施した。</p>	図版略	<p><b>23. 呉勝利・中国人民解放軍海軍司令員:</b> 北京は南シナ海の諸島の埋め立てを止めない [PLAN's Wu: Beijing Won't Stop South China Sea Island Reclamation]: (各種事案) 南シナ海における中国のアプローチはしばしば「サラミ・スライス」戦略として特徴付けられる。一連の漸進的行動であり、それ自体は戦争行為にあたらない。この戦略は徐々に中国優位にシフトさせようとするものである。人民解放軍少将・張召忠はこの戦略を「キャバツ戦略」と命名した。キャバツの葉のごとく、中国漁船、海警局船艇、海軍艦艇で構成する層で島々を包囲するからである。</p>
図版略	<p><b>18. ヴェトナム、インド企業 ONGC Videsh に採掘権を付与 [Vietnam Grants Indian Firm ONGC Videsh Drilling Rights]:</b> (2011) ONGC Videsh Ltd. はペトロ・ヴェトナムと石油・ガスの調査・生産に関する長期協力のための 3 か年契約を締結した。具体的には、ヴェトナムと中国間で主権の係争地であるブロック 128 での探鉱に合意した。 (原版写真は <i>Unsplash</i> の <i>Zachary Theodore</i> による)</p>	図版略	<p><b>24. 北京からの圧力に屈しないドゥテルテ [Duterte under pressure to stand up to Beijing]:</b> (2019) 国旗を振りかざした市民らが在マニラ中国大使館でデモ行進し、中国の海洋における領有権主張、インフラ・プロジェクトにおける拘束力のある融資契約、フィリピンにおける中国人の存在感の高まりに対して抗議した。</p>
図版略	<p><b>19. ドゥテルテはスカボロー礁から全ての漁船を「追い出す」 [Duterte 'Bans' all Fishing in Scarborough Shoal]:</b> (2016) フィリピン大統領ロドリゴ・ドゥテルテは、南シナ海の環礁の一部をフィリピン人と中国人の操業を禁止する海上サンクチュアリとする正式命令を発表した。</p>	図版略	<p><b>25. 中国軍機、合衆国軍「情報収集」機を要撃する [Chinese Jets Intercept US 'Sniffer' Aircraft]:</b> (2017) 中国軍の Su-30 戦闘機が放射線検出を任務とした合衆国軍機に、この地域の公空を飛行中に「職業倫理にもとる」要撃を実施した。</p>
図版略	<p><b>20. 中国の小切手外交 [Chinese Checkbook Diplomacy]:</b> (各種事案) 「中国は北京の外交路線から外れた国家を罰するために経済力を行使するという負の側面がある。国際社会が中国を全面的に受け入れることに躊躇するのは、このような要素によるものだ」 ISEAS-ユソフ・イシャク 研究所 ASEAN 研究センター長 タン・シュー・ムン博士</p>	図版略	<p><b>26. 北京の「反腐敗」闘争 [Beijing Cracks Down on "Corruption"]:</b> (2012-2019) 習近平国家主席は就任直後に反政治腐敗キャンペーンを精力的に開始し、彼は中国共産党と国家にとり死活問題であると述べた。</p>
図版略	<p><b>21. 中国の経済危機 [Chinese Economic Crisis]:</b> (潜在的な可能性) 中国の景気後退は外貨準備高の蒸発による人民元の無秩序な大幅切り下げを伴うだろう。住宅価格を含むすべての資産価値が打撃を受けるだろう。重要な貿易関係を持つ小規模な近隣国への影響はさらに大きいものだろう。予想外の景気後退のショックと、一個人が主導権を握る一党独裁国家での緊張が組み合わされると、政情不安が醸成される可能性が高まる。</p>	図版略	<p><b>27. 中国、ユーラシア交易のための「一帯一路」構想を策定 [Chinese Develop "One Belt One Road" Plan for Eurasian Trade]:</b> (2013) 一帯一路構想は、インフラ整備計画と巨額のインフラ支出により、アジア全体の貿易と経済成長を促進する中国の野心的な開発計画である。</p>

図版略	<p>28. 中国はセカンド・トーマス礁のフィリピン軍艦シエラ・マドレを包囲する [China Blockades BRP Sierra Madre Second Thomas Shoal]: (各種事案) フィリピン軍は中国の主張に対抗すべくフィリピン軍艦シエラ・マドレを故意に座礁させた。中国の艦船は同艦のフィリピン海兵隊員への補給を妨害・遮断する措置を取っている。</p>	図版略	<p>34. 合衆国、重大な人権侵害で中国を非難 [US Accuses China of Major Human Rights Violations]: (2019) 米国務省の年次人権報告書で「2018 年の北西部の新疆ウイグル自治区で 200 万人ものウイグル族ムスリムを中国政府が組織的に拘禁し、虐待や拷問を行っている可能性」にスポットライトを当てた。</p>
図版略	<p>29. 北京は常設仲裁裁判所の正当性を攻撃する [Beijing Attacks Legitimacy of Permanent Court of Arbitration]: (2016) ハーグの国際司法裁判所はフィリピンの主張を圧倒的多数で支持した。中国は、中国に対する判決は受け入れないと述べた。</p>	図版略	<p>35. 中国軍退役軍人による年金への抗議が北京を混乱させる [Protests by Chinese Veterans Over Pensions Distract Beijing]: (2017-2019) 予備役や退役軍人たちは、年金や給付金に関する約束を守るよう中国政府に要求するため抗議している。抗議行動は拡大し続け、地方政府が問題行動をし、地方政府の問題が国家的な問題に発展した。</p>
図版略	<p>30. 合衆国軍爆撃機、南シナ海を飛行する [US Bombers Fly Over South China Sea]: (各種事案) 合衆国軍機は 10 年以上前から頻繁に南シナ海上空を (B-52 や B-1 など) 軍用機で飛行している。これら飛行は海軍艦艇の行う航行の自由作戦ほどには広く知られていない。</p>	図版略	<p>36. 中国が合衆国潜水ドローンを鹵獲 [Chinese Seizes US Submarine Drone]: (2016) 中国が南シナ海の公海で水中ドローンを投下し、合衆国海洋観測艦ボーディッチが回収しようとしたところ、中国軍艦艇がこれを拾い上げてしまった。</p>
図版略	<p>31. 主要都市で民族主義者の抗議デモが勃発 [Nationalist Protests Erupt in Major Cities]: (潜在的な可能性) 過去 20 年間、合衆国や日本などの国に対する民族主義的な抗議運動が、政府の承認を得て中国の都市で盛んにおこなわれていた。</p>	図版略	<p>37. 国際連合事務総長 (アントニオ・グテーレス) [Secretary-General of the United Nations (António Guterres)]: (2016) 第9代国際連合事務総長。1995-2002 年までポルトガル首相。1999-2005 年まで社会主義インターナショナル議長。</p>
図版略	<p>32. 合衆国軍艦カール・ヴィンソン、ベトナムに歴史的寄港 [USS Carl Vinson Makes Historic Port Call in Vietnam]: (2018) 合衆国軍艦カール・ヴィンソンはベトナムに寄港した。ベトナム戦争後、合衆国海軍艦艇としては初めてのことであった。</p>	図版略	<p>38. 長江実業集团董事长 李嘉誠 [Chairman of CK Hutchison Holdings Li Ka shing]: 香港のビジネス界の巨物。資産 300 億ドル以上。中国で最も影響力のある実業家の一人。</p>
図版略	<p>33. 香港のデモ支援に対する中国の報復を恐れる合衆国企業 [US Companies Fear Chinese Reprisals Over Support for Hong Kong Protests]: (2019) 合衆国企業は巨大な中国市場での機会を失うことを恐れているため、香港での抗議活動に口を閉ざしている。 (原版写真は Unsplash の Joseph Chan による)</p>	図版略	<p>39. 中国工商銀行会長 蒋建清 [Chairman of Industrial/Commercial Bank of China (Jiang Jianqing)]: (2005-2016) 中国工商銀行会長。</p>
		図版略	<p>40. 台風 [Typhoon]: (2020) NOAA 国立ハリケーン・センターの観測によると、超大型台風「ゴニ」[和名: 台風 19 号] は、陸地に上陸した台風のなかでも最も強力な台風であった。</p>
		図版略	<p>41. COVID-19 が中国で大流行 [COVID-19 Outbreak in China]: (2019-2021) 中国を発生源とする COVID-19 は南シナ海の全国家に影響を与えた。</p>

図版略	<p><b>42. 米中航空機の衝突[US and Chinese Planes Collide]:</b> (2001) 合衆国海軍機 EP-3 と人民解放軍機 J-8 戦闘機が南シナ海上空で衝突した。両者は墜落した。EP-3 は中国領土に着陸した。</p>
図版略	<p><b>43. 米中貿易戦争[US-Chine Trade War]:</b> (2018年7月-2019年8月) 合衆国は 5,500 億ドル以上の中国製品に関税を課す計画を発表し、中国は 1,850 億ドル以上の合衆国製品に関税を課した。</p>
図版略	<p><b>44. 国連行動への要請[UN Action Petitioned]:</b> (2020) ケリー・クラフト 米国連大使は「中国の主張は 1982 年の国連海洋法条約を遵守していない」として、これを拒否するよう国連に要請した。</p>
図版略	<p><b>45. チャン・ダイ・クアン越国家主席の死去 [Death of Vietnamese President Tran Dai Quang]:</b> (2018) クアンの死去はベトナム共産党政治局に政治的空白を残した。</p>
図版略	<p><b>46. 北朝鮮のミサイル発射[North Korea Launches Missile]:</b> (2019-2020)短距離弾道ミサイル(複数)の広範な試験を行う。</p>
図版略	<p><b>47. 中国は防空識別区を宣言する [Chinese Declare ADIZ]:</b> (2013) 中国は東シナ海に防空識別区(ADIZ)を設定した。中国は南シナ海において ADIZ 設定を検討していると報じられている。</p>
図版略	<p><b>48. 合衆国、台湾関係法の正式な見直しを発表[US Announces Formal Review of Taiwan Relations Act]:</b> (1979) 合衆国は中国との関係樹立に当たり、台湾の人々と非公式な関係を結ぶことを約束した。合衆国議会は台湾関係法を制定して、それを法制化した。</p>

## 採点カード(49-55)[Scoring Cards]

図版略

## ソロ・カード(45-63)[Solo Cards]

図版略

## 戦略上のコツ

## 陣営の入札

- 中国は二人の経験豊富なプレイヤーの間では優位にある。
- 合衆国に VP の大量のプレゼントをすると、合衆国の即時勝利のリスクが高まるので注意してください。

## 採点

- あなたが何を採点しようとしているのか、相手に推測させておきましょう。
- 最後の採点では、カードが全て採点される前に即時勝利できるため、順番が重要です。あなたが有利な状況であれば、その順番をうまく利用しましょう。

## 島嶼埋め立てへの投資

- 合衆国は早期にテンションを上げ、FONOP に大規模な投資を行うことで、中国の島嶼の埋め立てを緩和できるでしょう。

## 経済的 対 外交的

- 影響力のバランスに常に注視してください。相手が積極的に経済的影響力を除去しているなら、相手は大きな経済的採点カードを獲得しに来るかもしれません。

## モード

- できるだけ多くのモードを手札にし、最大限の柔軟性を確保してください。
- 最も危険な敵のイベントをプレイするのが遅ければ遅いほど、相手がモードを合わせて自分の手番にプレイできる可能性が低くなります。

## テンション・トラックのプレイ法

- テンションが限界の場合、作戦は大きく制限されます。
- 島嶼の埋め立ては、テンションが高くなると必要量が増えます。
- 1 作戦カードは使うタイミングと使い方で劇的な効果を期待できます。

## 政略戦

- おそらく本ゲーム中で最もドラマティックで重要なアクションになる可能性があります。
- 政略戦の解決を成功裏に収めるために、どの程度のリスクをとるか、あったとしても、それはあなたの選択です。
- あなたが相手の政略戦を恐れる場合：
  - テンションを限界に維持する。
  - 政略戦のカウンターパンチを準備する。



## 南シナ海紛争のタイムライン

### 1947

中華民国は南シナ海の大部分を囲む「九断線[nine-dash line]」を公表。

### 1974

中国はベトナムからパラセル諸島を奪取し、70 人以上のベトナム兵を殺害。

### 1986 年 3-4 月

合衆国軍艦エンタープライズ(CVN-65)とフォックスロット戦闘群はシンガポールへ航行中に南シナ海を通過。ソヴィエト海軍航空隊の長距離哨戒機「ベア」機は、「ビッケ E」捜索に連日出撃するも失敗。CVN-65 は 4 個の艦隊責任海域すべてに展開し、ほぼ地球を 1 周する。

### 1988

中国とベトナムはスプラトリー諸島で交戦し、ベトナムは 60 人以上のベトナム兵を失う。

### 2011

クリントン米務長官は、合衆国の外交政策をアジアへのシフトを表す言葉として「転換(ピボット)[pivot]」という表現を使った。

### 2012

- ・「中国も含め、いかなる国家も南シナ海全域に対する主権的要求をしていない」。洪磊・中国外交部長[訳注:正しくは外交部報道官(スポークスマン)]
- ・中国、パラセル諸島でベトナム漁民 21 人を拘束。
- ・フィリピン海軍がスカボロー礁沖のラグーンで中国漁船を探知。
- ・ベトナムがスプラトリー諸島とパラセル諸島の領有権を主張する新しい海洋法を制定。
- ・中国はスプラトリー諸島とパラセル諸島の新たな行政区分を地級市の三沙市とする。

### 2013

- ・フィリピンは国連海洋法条約に基づき、中国の南シナ海における海洋権益主張に関する仲裁をハーグ国際司法裁判所との間で開始する。中国は参加を拒否。
- ・ベトナム国営メディアは中国の観光クルーズ船がパラセル諸島へ向かっていると報道。
- ・中国、東シナ海の東海防空識別区(ADIZ)を発表。
- ・合衆国軍艦カウペンズ、南シナ海で中国空母の監視中、人民解放軍艦艇との衝突を避けるため、避航を強要された。

### 2014

- ・中国南部の海南省は、中国以外の漁船員が操業する前に許可の取得を南シナ海の大部分で義務付ける。
- ・衛星画像によると、ミスター礁内のある島を埋め立てるため海砂を浚渫する中国が写っている。
- ・バラク・オバマ米大統領はマニラを訪問し 10 年間にわたる米比防衛協力強化協定に署名。
- ・中国は、パラセル諸島近傍に中国石油天然気集団(CNPC)所属の石油リグを移動する。
- ・ベトナムで反中国デモが発生し、中国系企業に被害が出る。
- ・中国船はパラセル諸島に派遣されたベトナムと折衝し、現地から石油掘削装置(リグ)を撤収させた。
- ・中国戦闘機が合衆国海軍哨戒機を要撃。
- ・米比両国、スカボロー礁近傍で合同軍事演習を実施。
- ・呉勝利・人民解放軍海軍司令員、中国が占領するスプラトリー諸島の五つの島嶼を訪問する。

### 2015

中国外交部は、フィリピンが ASEAN で合意した 2002 年行動規範を踏みにじっていると主張。

## 2016

- ・衛星画像によりパラセル諸島のツリー島とノース島を中国が拡張していることが判明。
- ・合衆国防省によると、南シナ海において合衆国哨戒機に対し中国機の「危険な」要撃が行われた。
- ・オバマ大統領はベトナムを訪問し、50 年来の武器禁輸措置を解除。
- ・ASEAN 公式声明で南シナ海情勢についての「深刻な懸念」の語が予想に反し撤回される。
- ・インドネシア海軍は、インドネシア EEZ 内で中国漁船に対し警告射撃を行ったと公表。
- ・中国、フィリピン主張の裁判内容の有効性を否定するキャンペーンを強化。
- ・新フィリピン大統領ロドリゴ・ドゥテルテは、国際司法裁判所の判決後、同国は中国政府と新たな協議に入る可能性がある」と述べた。
- ・中国がフィリピンの主権を侵害したとして、フィリピンの訴えを支持。
- ・中国は判決に「法的根拠がない」として、執行権限がないため仲裁をボイコット。

## 2018

- ・中国軍の爆撃機がパラセル諸島のウッディー島で初の離着陸を行った。
- ・スプラトリー諸島周辺で FONOP を遂行する合衆国海軍駆逐艦が中国海軍駆逐艦「蘭州」との衝突を回避する。
- ・ジム・マティス米国防長官は中国訪問をキャンセルし、トランプ大統領は習近平国家主席に「たぶんもう友人ではないのだろう」と語った。

## 2019

- ・フィリピン大統領ロドリゴ・ドゥテルテは、中国がスプラトリー諸島のフィリピンが占拠するティトゥ島(英:パグアサ島)付近で活動を継続するなら「自殺任務」の兵団を送る、と警告した。
- ・ベトナム EEZ のオフショア石油鉱区近傍に中国調査船 1 隻が進入する。
- ・ベトナム市民が在ハノイ中国大使館の外で抗議する。調査船は 2 か月後に海域から離隔した。

## 2020

- ・スプラトリー諸島で中国軍艦艇がフィリピン海軍艦艇に兵器を指向したと報じられる。
- ・中国はファイアリー・クロスおよびスビ礁に防御設備、軍用飛行場を含む新基地を開設した。
- ・1 隻の中国船がパラセル諸島近傍でベトナム漁船 1 隻に体当たりし、沈没させ、ベトナムは公式に抗議を表明。
- ・中国政府はパラセル・スプラトリー諸島を含む二つの行政区を設置する。フィリピン、ベトナムがこの行為を非難。
- ・中国、マレーシア、ベトナムの各船舶が約 6 か月にわたり関与した南シナ海のにらみ合いは、紛争の中心であったマレーシアの掘削船が本海域から退去したことで集結した。
- ・合衆国はマレーシアの EEZ を経由して艦艇群を送り、中国に「いじめ」をやめるよう呼びかける。
- ・ポンパオ米國務長官は、本地域における中国の主張の大半は違法であるとの声明を発表。
- ・中国外交部は、自国の主張は正当であるとし、合衆国が「問題を助長している」と非難している。
- ・2 隻の合衆国空母が南シナ海を巡航する。

## 2021

合衆国國務長官アンソニー・ブリンケンは次のような声明を発表した:「南シナ海ほどルールに基づく海洋秩序が脅かされている場所はなく、『さらに』、合衆国は南シナ海における海洋権益主張に関する 2020 年 7 月 13 日の政策を再確認する。」



# FLASHPOINT SERIES VOLUME I

## 危機の国家

### フラッシュポイント: 南シナ海の舞台装置

『危機的状况とは現実の戦争にほかならず、均衡とはその反映に過ぎない。[The state of crisis is the real war; the equilibrium is nothing but its reflex.]』

カール・フォン・クラウゼヴィッツ[Carl von Clausewitz]

戦争と平和はもはや 2 項対立ではない。合衆国とその仲間たちは現在戦争と平和の間のグレー・ゾーンで活動することが多い。南シナ海では、中国が領有権主張を固め、他の領有権主張国に影響を与えるべく積極的な活動を見せようとしているのがこのケースである。中国はその行動を、戦争の閾値より低く抑えることで、合衆国の軍事的対応を抑制している。緊張は関係国の行動と反応に基づき上下する。次の動きは、緊張度(テンション)に与える影響と文脈で観測されねばならない。

**フラッシュポイント: 南シナ海** は、このようなグレー・ゾーンでのオペレーション上の課題を掌握するために機能する。軍事的解決を図れない、また解決できない紛争を、交渉と軍事的・経済的影響力の思慮深い行使により管制されなければならない。これは本地域の国家間の影響や緊張度にインパクトを与える可能性のある出来事文脈中で発生しうるものである。

中国の主張は 2,000 年にわたる海洋の歴史に基づく。これらの主張は中国の地理的拡大戦略の一環として押し付けられている。浚渫やインフラ建設による島嶼の開発は、中国の主張を概念的なものから物理的なものに变化させている。中国はこの地域の領有権主張国らを紛争解決のための国際フォーラムから遠ざけるような影響を与えられれば、これら中国の島嶼は中国の主張を強化することになる。時間は膨張するドラゴンの味方である。

合衆国にとっての課題は、中国の「ホーム・コート」で中国の行動に対処しなければならないことである。中国から挑戦を受けている領有権主張国らの主権を守るため、合衆国は彼らを支援し、影響力を構築し、中国の脅威に対抗しなければならない。合衆国の支援が無ければ、中国は容易に領有権主張国らに影響を与え、この地域を支配できるだろう。

南シナ海の 100 マイル以内にはおよそ 5 億人が居住しており、この地域の重要性を軽視はできない。この地域は重要な漁場であり、潜在的な実入りのよい天然資源を含み、世界にとり重要な航路でもある。世界の漁獲量の約 12% は南シナ海からもたらされる。この地域には数千隻の漁船があり、その約 55% が中国人である。この地域の紛争の多くは漁業権と[訳補: 漁場への]侵入が原因となっている。少なくとも 70 億バレルの石油と推定 900 兆立方フィートの天然ガスという南シナ海の炭化水素埋蔵量は、マレーシア、フィリピン、ヴェトナムに多大な経済的チャンスと、そして経済成長を続ける中国にエネルギー安全保障をもたらすものだ。

南シナ海は世界で最も交通量の多い国際航路の一つである。世界の石油タンカーの 50% が南シナ海を航行する(スエズ運河の 3 倍、パナマ運河の 5 倍以上)。アジアの貿易規模拡大に伴い、航行の自由の確保は極めて重要な加太となっている。中国の 21 世紀海上シルク・ロード構想は、中国にとり南シナ海が重要であることを物語っている。

## ゲーム・クレジット

### ゲーム・デザイン

ハロルド・ブキャナン[Harold Buchanan]

### ディベロッパー

ジェーソン・カー[Jason Car]

### グラフィック

Terry Leeds

### ルール編集

Kai Jensen

### プレイテスト美術

Francisco Colmenares

### プレイテスターたち

Colin Taylor, Bruce Degi, Mike Vilbert, Volko Ruhnke, Ananda Gupta, Mark Herman, Ben Moores, Arthur Switalski, Gene Billingsley, Sam Argento, John Tiehen, VPJ Arponen, Terry Leeds, Tom Liakos, Jeff Jones, John Olson, Grayson Page, Christopher Scholz, Russ Moses, Patrick Garrett, Edgar Milik, Angelica Aguilar, Pat Wells, Time Charlesworth, Luke Billingsley, Rachel Billingsley, Ken McMillen, Trevor Bender, John Echeverria, Michael Lahl, Bruce Mansfield, Scott Mansfield, Shaun O' Keffe, Joe Dewhurst, Ken Kuhn, Stephen Rangazas, Fred Serva, Maurice Engle, Francisco Colmenares, Michael Kirk, Tony Au, Eric Scott, Alex Rittenberg, Martin Weeks, Nic Werner, Michael Kirk, Jesse Patkau – そしてコンヴェンションに参加したゲーマーたちが自身の感想を惜しみなく述べてくれた。

### プロダクション・コーディネーター

Tony Curtis

### プロデューサーたち

Gene Billingsley, Tony Curtis, Andy Lewis, Rodger MacGowan, and Mark Simonitch

### カード画像のクレジット

アート・ワークの多数はオンライン上のオープン・ソースであるが、一部異なる帰属条件に該当するものもある。

#9 中華民国・総統府[Office of the President, Republic of China]

#38 スタンフォード大学医学部エドテック[EdTech Stanford University School of Medicine], CC BY 2.0

<https://creativecommons.org/licenses/by/2.0/>



## 配布されるイベント・カード(計48枚)

### ポイント

	中国	合衆国	中立国	小計
3	7	6	0	13
2	9	13	1	23
1	0	0	12	12
合計	16	19	13	48

### モード

	中国	合衆国	中立国	小計
交易	7	6	5	18
軍事	6	7	4	17
地域	3	6	4	13
合計	16	19	13	48

### テンション

	中国	合衆国	中立国	小計
限界	3	0	0	3
低	2	1	1	4
増加	2	5	0	7
減少	0	1	0	1
オプション	0	0	12	12
なし	9	12	0	21
合計	16	19	13	48

### 採点

	中国	合衆国	中立国	小計
ブルネイ	1	5	1	7
インドネシア	4	1	2	7
マレーシア	2	1	3	6
ヴェトナム	1	4	1	6
フィリピン	2	4	0	6
経済的	3	2	3	8
CR-FONOP	3	2	3	8
合計	13	19	16	48

### OP ポイント — 採点による

	1OP	2OP	3OP	小計
ブルネイ	1	4	2	7
インドネシア	2	4	1	7
マレーシア	3	3	0	6
ヴェトナム	1	3	2	6
フィリピン	0	5	1	6
経済的	3	3	2	8
CR-FONOP	2	1	5	8
合計	12	23	13	48

### PW の解決

PW	成功率
1	25%
2	73%
3	100%

